



夏の雨後

アンドリュースノルトン作

孤蓬生譯

雨やみぬ。かなた濃き雲

やすらへる、眞珠の光

雲、雲に、重なりて、妙なる姿

青空はほの暗う。

地はたゞ、黙によるこぶ

麗はしのすゞしきめぐみ。

喜びの遍ねきを領たんとてや、

八千草は葉を擴ぐ。

やは日かげ心おちろで、

くし光白くそゝぎぬ。

涼し風、吹きそめて、
百香に息すなる。
る御苑

濃き雲の重なる彼方、

氣の精靈しばし休らひ、

人の世を見下ろして、雲に浴し、

興すとぞ思はるゝ。

浮雲被衣脱ぎすて

日輪の輝やき出で、

野に原に濃緑の草樹皆から、

きらめける露の玉。

○四季 まぼろし

みどり色どる野に山に、長閑に唄ふ鳥の聲、

彌生の花は咲きみちて、狂ふ胡蝶も面白や、

颯と吹きくる夕風に、少女の袖をひるかへし、

柳の月の影細く、螢とび交ふ池の面。

木々の梢も淡く濃く、紅葉色どる野に山に、

清くさえたる月の影、虫のなく昔のことしげく、

見渡す限り白妙の、雪に野山は包まれて、

ふばをあきらん術もなく、枯の枝に鳴くからす。